

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025 年 3 月 11 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	2 年生
帰国年月日	2025 年 2 月 21 日
明治大学卒業予定年月	2027 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	マレーシア
留学先大学	マラヤ大学(日本語名) Universiti Malaya(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語・マレー語 / 英語
留学期間	2024 年 9 月～2025 年 2 月
留学先大学で在籍した学年	年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☒ 国立 ☐ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 10 月上旬～2 月中旬 2 学期: 3 学期: 4 学期:
学生数	約 35000 人
創立年	1905 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (RM) (1 現地通貨 = 35 円)	B 日本円	備考
授業料		23,048 円	Administration fee USD150(1 学期分)
宿舍費	RM 8,000	円	①1400RM×4 か月、②1200RM×2 か月
食費	RM 4,700	円	
図書費	RM 250	円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	RM 240	円	月 40RM
現地交通費	RM 360	円	(☐ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	RM 150	円	
旅費(留学中)	RM 1,045	35,000 円	
被服費	RM 200	円	
医療費	RM 860	74,500 円	うち保険適応あり:約 RM760 日本円:予防接種
保険費		114,510 円	形態: 明治大学海外旅行保険
渡航旅費		151,676 円	
ビザ申請費	RM1,401	円	Visa 申請(1 年分):RM 1,297 Visa キャンセル:RM 104
雑費		円	
その他		106,527 円	iphone 代
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	RM17,206 (=602,210 円)	505,261 円	
総計(A+B) ※円		1,107,471 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：成田空港 目的地：クアラルンプール国際空港 経由地：

復路 出発地：クアラルンプール国際空港 目的地：成田空港 経由地：

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：マレーシア航空 料金：86,760 円

復路 航空会社：マレーシア航空 料金：64,916 円 ∴合計：151,676 円

航空券購入方法

☐ 旅行代理店(店名：)

☒ インターネット(サイト名：マレーシア航空公式ホームページ)

☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

☐ 学生寮(寮の名前：) ☒ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

住居①

明治大学で昨年度にマラヤ大学に留学していた先輩から、別の日本人の先輩を紹介していただき、その方から部屋を譲り受ける形で契約しました。

住居②

マレーシア掲示板という、マレーシアに住んでいる日本人向けのサイトがあり、そこでルームメイトを探している方と知り合い、部屋に住まわせてもらいました。

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

マラヤ大学内の寮や IH に住むという選択肢もありましたが、自分個人の部屋が欲しいという部分を譲ることが出来なかったため、大学外のコンドミニアムに住んでいました。友人が IH に住んでいたの遊びに行ったり話を聞くこともありましたが、IH はマラヤ大学の寮の中では綺麗なものの、多くの留学生にとっては不便を感じる部分が多いようです。また、他国の留学生とのつながりができやすい分、揉めることも多いと聞いたこともあります。

住居①

前述したとおり日本人の先輩から譲り受け、2～3 人のミャンマー人・マレー人とシェアハウスをしていました。自分の部屋にすることが多く、ほとんど会話をするとはなかったです。当初 1 年間の留学予定だったので、1 年間の契約をしていたのですが、オーナーの個人的都合で入居して約 1 か月で、2 か月後までに退去するように通告されました。入居した部屋自体、複数箇所が壊れていて自分の部屋の鍵を閉めることが出来ず、またオーナーが電気代やインターネット代を常時滞納しているというような、問題の多い物件でした。オーナーと退去の問題で揉めたこともありましたが、はっきりと自分の意見を伝えることが大事だと学びました。また、入居時に既に何か壊れているというような問題があれば、写真を残しておく・オーナーにすぐ連絡するなど対処することをお勧めします。マラヤ大学の寮には限りがあり、海外で自力で部屋を見つけることが難しいのは確かなのですが、前の住人から引き継ぐ場合は、その部屋の状態やオーナーについて確認すべきだったと思いました。

住居②

複数の不動産会社で次の住居を探したのですが、残りの留学期間が短いことから自分の条件に合う物件を探すことが出来ず、このタイミングで留学期間の短縮を決めました。次の住居では約 2 か月だけでしたが、日本人の社会人の方とシェアハウスをしていました。駅や大学から少し距離があったものの、前の住居より綺麗で、日本人の方と住めることでかなり快適に過ごすことが出来ました。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☐ なし

☒ あり (治療を受けた場所: ひばりデンタルクリニック(日系の歯医者))

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☐ なし

☒ あり (問題の内容や相談した人等: 親や友人、明治大学の留学担当、マラヤ大学のバディ)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

留学生同士で情報を共有することが多かったです。私自身が何かに巻き込まれることはありませんでしたが、盗難事件について、何度か耳にしたことがあります。鞆や自分の持ち物を放置しないように、目を離さないように気を付けていました。また、大学内で一時期複数の猫が同じように亡くなっている、というような事案があったので、夜遅くなったら歩かず Grab を使う、なるべく複数人でいるようにするなどの対応をしました。

また、マレーシアではカードの不正利用の事案が多いようで、私自身も被害に合いましたし周りの友人も何人か不正利用されていました。カードの利用があれば通知が来るように設定していたのですがすぐに気づき、次の日には返金してもらうことが出来ました。普段使っているカードよりは、Wise など新しいカードを留学用に作って持っていくことをお勧めします。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯は一か月約 1500 円で使い放題のプランを使用できたので、ずっとそれを購入していました。大学、カフェなどの Wi-Fi は弱い場合があるので、テザリング機能でパソコンを使用することが多かったです。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地の銀行口座は開設せず、Wise のデビットカードを日本で作って持っていきました。口座が無くて困ることはほとんどなかったのですが、住居のデポジットを口座で受け取ることが出来ないため、現金で返してもらいました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

日本の企業が多く進出しているため、手に入らないものはほぼありませんが、値段は高いです。薬や虫よけスプレー、日焼け止めなどは使い慣れているものの方が良いと思うので、持っていくべきだと思います。また、電子レンジ用のライスクッカーやパスタクッカーを持って行ったおかげで、自炊に困ることが少なかったです。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
15 単位	☒ 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☐ 出発前 ☒ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☒ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☐ 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
LANGUAGE ARTS TEACHING	言語教育指導
科目設置学部・研究科	Faculty of Education
履修期間	Semester 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	Prof. Madya Dr. Chew Fong Peng
授業内容	マレーシアでの幼児への言語教育(主に英語教育)がどのように行われているか、その重要性や問題点、解決策について学ぶ。
試験・課題等	・グループ課題が二つあり、プレゼンとレポートが課される(与えられた問いに回答する形で、英語のそれぞれの技能への教育の重要性や教育方法、そして教師が抱える問題点と解決策について) ・地元の子供たちに向けて、劇やダンスのパフォーマンスを披露する ・期末試験(グループ課題で学んだことを自分で要約して記述、また自国の言語教育の現状や問題点について)
感想を自由記入	個人的に一番苦労した授業だったと思います。国民性だと思いますが教授がとてもルーズな人で、授業の遅刻は当たり前でしたし課題のプレゼン時に居眠りされたこともありましたが、私は英語が母語ではない国でどのように英語教育が行われているのかということに興味があって履修したので、自分の学びたい内容については学ぶことが出来ました。ただ、授業は生徒の課題のプレゼンが中心でした。また、この教授は基本的にマレー語を使うことが多いので、授業についていくのが大変な時もありました(前学期は留学生が数人だったため、マレー語で授業が行われていたそうです)。パフォーマンス準備を通して多くの友達を作ることが出来たので、個人的には履修してよかったと思っています。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
ELEMENTARY MALAY	初級マレー語
科目設置学部・研究科	Faculty of Language and Linguistics
履修期間	Semester 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンライン形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	Prof. NUR AFIFAH BINTI ABDUL RAHMAN HALAWA
授業内容	履修者が留学生だけの中で、初歩的なマレー語(挨拶や単語など)を学ぶ。
試験・課題等	・留学生としてのマレーシアでの生活をマレー語でプレゼン、レポート ・中間テスト(それまでに習ったものについて、オンライン試験)
感想を自由記入	今学期から仕様が変わったようで、基本的に Future Learn というウェブサイトを使って、マレー語の短い動画を見たり、単語を学んで問題を解く形でした(講義らしいものはオンラインでもほとんどありません)。また、教授の都合で 10 週目までしか授業がありませんでした。そのため、あまり多くの表現を覚えることはできなかったのですが、マレー人の友達に学んだ表現を披露すると喜ばれて、仲良くなるきっかけになったので良かったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
CHILD DEVELOPMENT	子供の発達・発育
科目設置学部・研究科	Faculty of Education
履修期間	Semester 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	DR. AMIRA NAJIHA BINTI YAHYA
授業内容	幼児の発達・発育について学ぶ(特に言語・認知・心理社会的発達について)。
試験・課題等	・グループ課題(子供の発育に関連したアクティビティを考え、イベントで実施する。その結果をもとにレポートとプレゼンを制作) ・中間試験(オンライン・4 択問題) ・期末試験(記述式・持ち込み可、授業内容について選択・記述問題で質問される)
感想を自由記入	幼稚園の先生になりたい学生が履修する授業のようです。子供の発達過程について理論的に学べ、また自分の興味のある言語発達の段階について学ぶことが出来たので良かったです。アクティビティを考え実行することは大変でしたが、実際に現地の子供と触れ合えたことは良い経験になったと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
HERITAGE OF SOUTHEAST ASIA		東南アジアの遺産	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Sciences		
履修期間	Semester1		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回		
担当教授	PROFESOR DR. HANAFI BIN HUSSIN		
授業内容	東南アジア諸国の有形・無形文化遺産について学ぶ。		
試験・課題等	・中間課題(期末課題に向けてどのような内容でレポートを書くか計画し、レポートとプレゼン) ・中間テスト(オンライン試験、東南アジア各国の有形・無形文化遺産を 1 つずつ上げ、説明する) ・期末課題(自分で選択した遺産について、レポートとプレゼン)		
感想を自由記入	東南アジアについてあまり知らずに留学したので、東南アジアの文化について学びたいと思い、履修しました。前学期から教授が退職したものの、後継の教授がいないそうで、これまでの教授が非常勤講師として授業を行っています。そのため教授の授業への意欲が低く、授業はよく休講になっていましたし、開講されてもオンラインや 1 時間ほどの短縮授業が多かったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
INTRODUCTION TO GENDER STUDIES		ジェンダー入門	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Sciences		
履修期間	Semester 1		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(120 分)、チュートリアル(60 分)(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回		
担当教授	DR. MAIMUNA HAMID MERICAN		
授業内容	ジェンダーに関する問題(家長制・ジェンダー不平等・性暴力・DV など)について、特にムスリム・マレーシアの視点から学ぶ。		
試験・課題等	・個人のレポート(指定された論文を読んで要約し、自分の意見を述べる) ・グループ課題(授業に関連した内容についてプレゼン・レポートを制作し、チュートリアルでプレゼンする) ・期末テスト(授業に関連した内容について記述式で解答する)		
感想を自由記入	履修者のほとんどがインドネシアからの留学生で、教授もムスリムだったことから、ムスリムの視点からジェンダーに関連する現状やその改善策について学びました。イスラム教の慣習とジェンダーに関わる問題点について学びましたし、また様々な国出身の生徒で構成されていたことから他国での考え方や現状についても知ることが出来ました。教授も寛容で授業への意欲が高く、個人的に 1 番履修してよかったと思っています。授業です。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	大学入学
	8 月 ～ 9 月	TOEFL 受験
	10 月 ～ 12 月	留学選考
留学開始年	1 月 ～ 3 月	留学決定
	4 月 ～ 7 月	出願、ビザ申請、ワクチン接種
	8 月 ～ 9 月	渡航
	10 月 ～ 12 月	授業開始
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	期末テスト、帰国
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

留学先を選んだ理由

私は、日本以外の英語が母語ではない国でどのように英語教育が行われているのか、ということに興味があったので、その条件に合う、英語が母語ではないが英語が主な言語として使用されている国を探していました。また当時は一番優先した条件が一年間留学できることだったため、金銭的な負担を考え、アメリカやカナダのような留学先として人気で物価の高い国ではなく、比較的安く留学できる東南アジアに目を向けました。東南アジアにある明治大学の協定校で、英語教育について学べる大学を絞り込み、マレーシア国内で1位と言われているマラヤ大学に留学すれば、自分が学びたいことを学びつつ良い刺激を得られると思い、留学先に決めました。また、マラヤ大学では特定の学部には所属する必要がなく、自由に授業が履修できることも魅力だと思います。また、単一国家である日本とは正反対に、マレー系、中華系、インド系という複数の民族が共に暮らしているマレーシアでは、人々がどのように共存しているのか、文化がどのように混在しているのか気になったことも理由の一つです。

マラヤ大学について

マラヤ大学は前述のとおり、マレーシア国内で1位と言われている国立大学で、キャンパスがとても広いことが特徴です。特に私は中野キャンパスで普段過ごしているので、キャンパス内にたくさんの建物があるマラヤ大学は新鮮でしたが、初期はクラスの教室が分からず、苦勞しました。先輩方の留学報告書を見ても、マラヤ大学はレベルが高くやる気のある生徒が多く刺激を受けた、という記述が多くみられましたが、個人的には他大学と大きく変わらないと思います。授業は教授によって当たり外れが大きいと思います。現地の学生は国民性のせいか、比較的ゆったりとしていて課題の期限や時間への感覚が私と大きく異なっていましたし、周りの留学生の多くはマラヤ大学に学ぶことを主な目的としておらず、大学内でのクラブ活動での人々との交流や異文化交流の経験、または観光・近隣への旅行に重きを置いているので、自分が当初求めていた勉学に集中できる理想的な環境だったとは言えないかもしれません。当初は授業を6つ登録していましたが、課題量が多く5つに絞りました。それでも、日本の大学よりも多い課題量を英語でこなすことは難しく、ずっと課題に追われている状況で、あまり旅行や観光をすることが出来ませんでした。多くの留学生は3、4個しか授業を取っていないようです。ですが、様々な国から留学生を受け入れていること、現地生と同じ授業を受けて交流ができることは大きな魅力だと思います。はじめは話しかけることが出来なくて、なかなか友達が出来ませんでした。授業の後半には様々な国の友達が出来ました。マレー人の子たちにマレー料理をお勧めしてもらったり、違う国出身の子とお互いの国の料理を食べたことは、日本国内ではなかなかできない良い経験が出来たと思っています。様々な国の人々と交流することで、それぞれの国の文化の違いや魅力を知ることが出来ましたし、自分が無意識的に偏見を持っていたこと、そしてそれがすべての人々に当てはまるわけではないということに気づくことが出来たのも、大きな財産だと思います。

日常生活について

マレーシアは、日本人にとって比較的住みやすい国だと思います。イオンやドン・キホーテのような日系の企業・店舗が多く進出しているので、値段は高いものの、現地で調達できないものはほとんどないと言えるでしょう。マラヤ大学は首都のクアラルンプールにあるので比較的発達しており、東京と大差ありません。ただ、バスは遅延や運休が当たり前で、時刻表もはっきりしておらずよく分からなかったり、最寄り駅が遠く、車がないと不便な場面もあります（その場合は、Grabを呼んでいました）。私は大学外の台所がある場所に住んでいたのですが、一部の大学の寮は台所がないと聞きました。また、日本人の友人たちは辛い物が苦手な人が多く、食べるものに少し苦勞したようです。マレー料理にも辛いものはありませんが、学食は辛い物が多かったです。

留学期間の短縮について

私は当初 1 年間の留学を希望して選考を受け、留学を開始しました。しかし、実際に留学して見て大学の授業や周りの生徒の雰囲気が想像と大きく違っており、自分の学びや留学の目標の達成に適しているとは言い切れないこと、それにもかかわらず授業の課題に膨大な時間を費やさなくてはならないことから、期間短縮を考え始めました。また、住居の問題が起きて契約が無くなったことで早期帰国への懸念点が無くなったことも理由の一つです。これらのことは実際に留学してみないと分からなかったことだと思いますが、選考に応募する時点でもっと深く考えるべきだったと反省しています。1 年間のつもりで準備していたので、海外保険料やビザなどは 1 年間分支払っており、このお金はもちろん返金されません。また、私のこの決断により、両親や明治・マラヤ大学の職員の方々に多大な迷惑をかけてしまいました。留学に何を求めるかは人それぞれだと思いますが、留学で得られるのは勉学の知識だけではありません。勉強・授業についてだけを考えるのではなく、観光や人との交流、クラブ活動についても考慮し、何に力を入れたいのか、留学先を決める時点でしっかり考えておくべきだと思います。また、基本的に留学先で得られる単位は日本にいる時よりも減るので、特に勉学以外を重視したい場合は 1 学期間を選んだ方が良いと思いました。